

平成29年10月31日

各 位

会社名 株式会社スターフライヤー
 代表者名 代表取締役社長執行役員 松石 禎己
 (コード番号：9206 東証第二部)
 問合せ先 取締役常務執行役員 柴田 隆
 (TEL 093-555-4500)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2017年4月28日に公表した2018年3月期(2017年4月1日～2018年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当期の業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想(A)	37,000	2,000	2,000	1,000	349.0
今回発表実績(B)	37,700	2,800	2,700	1,600	558.4
増減額(B-A)	700	800	700	600	
増減率(%)	1.9	40.0	35.0	60.0	
(参考)前期実績 (平成29年3月期)	34,886	3,058	2,985	1,931	673.9

2. 修正の理由

当第2四半期累計期間における売上高につきましては、レベニューマネジメントの強化をはじめとした増収に取り組んだ結果、現在のところ堅調に推移しております。一方、費用面につきましては、当初想定レートと比較し原油価格は低水準で推移したことに加え、為替レートは円高傾向で推移したことから、燃油費や外貨建ての費用が大きく抑えられておりました。

他方、下半期につきましては、季節的変動はあるものの売上高は堅調に推移すると見込まれる一方で、原油価格の上昇や円安の進行など外部要因の悪化が継続していることに加え、羽田－福岡線における羽田空港発着ターミナル変更などにより人員が増加したほか、国際定期路線展開のための準備などにより、費用が増加すると見込んでおります。

このような当第2四半期累計期間の結果および足元の状況に基づく下半期の業績予想を踏まえ、通期の業績予想を見直した結果、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は、いずれも当初想定を上回る見通しとなりましたので、業績予想を修正いたします。

なお、この業績予想の修正においては、為替レートは1米ドル115.5円、1ユーロ130.0円、原油価格レート（ドバイ）は58.5ドル／バレル相当とし、当初想定における前提を据え置いております。

当社は、為替相場および原油価格相場によって業績が大きく影響を受けます。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

（1）原油価格相場

1バレル当たり1米ドルの変動により、第3四半期から第4四半期の6ヶ月間において燃油費に12百万円の影響を受ける可能性があります。

（2）為替相場

1米ドル当たり1円の変動により、第3四半期から第4四半期の6ヶ月間において燃油費、航空機材費等に37百万円の影響、経常利益段階では24百万円の影響を受ける可能性があります。

※ 上記の他にも、将来の航空機材の定期整備費用に備えるための定期整備引当金は米ドル建てで金額を見積っていることから、期末日レートの変動により、貸借対照表残高および定期整備引当金繰入額に影響を受ける可能性があります。

（注）上記の予想数値は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上